

2024年5月カナダ🇨🇦ツアー報告

5年ぶりに訪れたカナダケローナ市の空は、変わらず青く広く、清々しい風が私達をむかえ入れてくれました。昨年秋のヨーロッパツアーに続き、リーダーアート・リーと著者市瀬の2人旅。到着当日から学校公演とワークショップ、フルコンサートと立て続けにスケジュールが詰まっています。待っていてくださる方が居る、何と幸せな事でしょう。



???背後に豹???!

学校公演の一コマです。実はここ、中学校の体育館。こちら (右の写真) ➡ がその壁絵画の全容です。ところ変われば。。。カナダの自由な校風の中、今回お会いできた子ども達も大興奮で演奏に観入ってくれました。「波頭の響き」と共に踊ってくれた女の子が印象的でした。

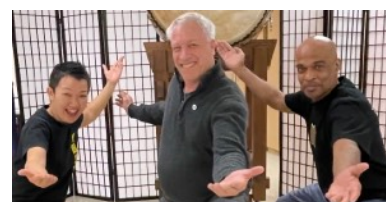


子供の日にいったフルコンサート「こぶし」。会場をお客様で埋め尽くし、ご尽力くださった関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。そして日曜日の夜にも関わらず会場にお越しくくださった皆様。カナダ北極圏はじめ遠方からもアメリカカリフォルニアからもこの日の為に飛行機で駆けつけてくださった方もいらして、感極まるばかりです。この時間を共有出来たこと心から感謝申し上げます。

演奏の日いつも思うことは曲目やプログラムは同じでも決して同じステージは一度として無いという事です。その日その会場で会ったみなさんと共有できる時間はその時しか無い、そう思うとこれが最後のステージだとしても悔いのない様に全てを曝け出し搾り出したと偽り無く断言出来る様に毎回のステージに望みます。そう表現するとまるで厳しい闘いに臨む様に聞こえますが、私達にとってこの時間は頗る幸福な時間でもあるのです。

Dr.たつこさん?!

今回のツアーで特に感謝したい方、ケローナ市の太鼓チーム「やまびこ太鼓」創立メンバーであるケン・フィックスさん。出会いは20年前に遡り、偶然同市を訪れたアートに「一緒に演奏しませんか？」と声をかけてくださったのがきっかけだそうです。それ以来、劇場公演はもとより学校公演、ワークショップ、シンフォニーとの共演、様々な形でTOKARAのカナダツアーをサポートしてくれています。今日ご紹介したいのは、彼が所有する大きな平胴大太鼓のお話です。



ケン・フィックスさん(中央)

大太鼓を打つ時、自分がすっぽり入ってしまうほどの巨漢でどっしりとステージ中央に据えられた大太鼓を拝むと、生半可な気持ちでは太刀打ちできない相手と向き合っている様な気持ちがします。太鼓は自分を映す鏡であり、嘘がつけぬ相手です。大太鼓を打つ事は、心身共に鍛錬を積んだ大太鼓打ちにしか許されない特別な領域の様に思います。

私がステージ脇で見るアート・リーの大太鼓のソロ演奏に1回とて同じものは有りません。特にここ数年、この彼の演奏1回1回が特別に感じます。

今回の公演でもクライマックスに近づき大太鼓「こぶし」が始まって数分。アートが肩の力を一瞬緩めたのがわかりました。まるでボクサーがリングに上がる前、肩を上下に振って脱力する様に。いつもに増してどこか別のスイッチが入った気配でした。そこから本当にとっても長く深いストーリーが始まりました。(今ここでお見せ出来ないのが残念です。)

実は、この時演奏に使ったケンさん所有の平大太鼓、厚い胴と硬い皮を持ち合わせて一筋縄ではなかなか“良い”音がなりません。私が「頑固者」と表現したら、アートは「どのタイミングでどう接するかが分かれば通じ合える」と言いました。太鼓打ちはよく太鼓に名前をつけています。それぞれに個性があり人の様に感じるからかも知れません。

公演が終わり、ケンさんと話をする機会にそれとなく「既にこの太鼓に名前は有りますか？」と尋ねてみました。すると偶然にも、アートの太鼓の演奏の時から自分も太鼓の名前を考えていたとの事でした。そして浮かんだ名前が「たつ子」だと教えてくれました。たつ“龍”に“子”女性のイメージだそうです。アートにも同じ質問を。すると彼は「Mr.(ミスター)とかMrs.(ミセス) というよりDr.(ドクター)かな。」と。この平大太鼓、今度カナダを訪れる時には「Dr.たつ子」と呼ばれているかも。



中央が平大太鼓Dr.たつ子

ワークショップ

日本の太鼓に歴史がある様に北アメリカの太鼓にも歴史があります。今回ケローナ市から1時間程離れたバーノン市と、そこから更に1時間半移動してカムループス市でも「雷電太鼓」の皆様とワークショップの機会がありました。ツアー最終には車で8時間内陸に移動し13年ぶりにエドモントン市を訪れ、「北の太鼓」の皆様と輪になってステアマスターのワークショップ。



雷電太鼓のみなさんと

どちらにも日本人コミュニティセンターがあり、日本庭園やお寺が併設され、大きなキッチンとホール、柔道場を備えた立派な施設も。丁度、子供の日にちなんで鯉のぼりが泳いでいました。(ちなみに日本食材も容易に現地スーパーで手に入ります。)

ただこの様なコミュニティも普段日本に居るだけでは余り知り得ない北アメリカでの日本人迫害の歴史があつてこそ。太鼓チームの歴史もこの歴史の背景が大いに関わっていたりします。

今回お邪魔した始動されたばかりのバーノン市の太鼓チーム。大きなバケツにテープを貼り太鼓にみたくて練習に励んでいました。新しい歴史のはじめりに逢えて光栄です。このチームの成長を楽しみに、皆様とのまたの再会を願っています。



北の太鼓のみなさんと



バケツ太鼓での練習中

嬉しい事に、既に来年のカナダツアー構想が始動しました。遥か北極圏までお邪魔します。

最後に広大な自然に触れた一幕です。有名なカナディアン

ロッキーのエメラルドグリーン色の湖は氷の下に。

◀滞在中にエドモントン市の空に出現したオーロラ。次の日の朝は遠く隣県で起こった山火事の影響で街は煙の中でした。

